

目 次

こども福祉科 保育士コース 2年

A 厚生労働省指定科目

*…豊岡短期大学通信授業科目との合同授業。
豊岡短期大学通信教育部シラバス参照のこと。

教養科目

憲法	渡 邊 護	3
経済学	村 中 典 彰	4

専門的科目

こども家庭支援論	高 橋 麻 実	6
* こどもの理解と相談支援	浦田 日出雄	
こどもの保健	奥 野 啓 子	7
こどもの食と栄養	坂 岡 寿 恵	8
* こどもの指導法「環境」	武 田 克 江	
こどもの指導法「音楽表現Ⅱ」	折 笠 美 穂	
* 田 中 智 子		
房 田 里 枝		
乳幼児保育Ⅱ	谷 内 智 美	9
こどもの健康と安全	高 橋 和 也	10
障害児保育Ⅱ	千 葉 桂 子	11
社会的養護Ⅱ	和 田 晃 尚	12
子育て支援	伊 藤 礼 美	13
保育・教職実践演習	高 橋 和 也	14
* 特別支援教育	小 嶋 義 勝	
こども学概論	谷 内 智 美	15
* こどもの指導法「音楽表現Ⅲ」	折 笠 美 穂	
* 田 中 智 子		
* 環境論	早 坂 聡 子	
こどもとリズム表現Ⅲ	道 上 里 奈	16
幼児造形	矢 元 政 行	17
こどもと音楽表現Ⅳ	折 笠 美 穂	18
田 中 智 子		
保育実習Ⅱ	谷 内 智 美	19
保育実習Ⅲ	房 田 里 枝	20
保育実習対策Ⅱ・保育実習指導Ⅱ（保育所）	谷 内 智 美	21
保育実習対策Ⅲ・保育実習指導Ⅲ（福祉施設）	房 田 里 枝	22
こどもと体育	矢 幅 照 幸	23
卒業研究	房 田 里 枝	24

保育制作Ⅱ	谷内智美	25
障害者支援論	林 広康	26
卒業研究Ⅱ	房田里枝	27
卒業研究Ⅲ	房田里枝	28
こどもと音楽表現Ⅵ	折笠美穂 田中智子	29
児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	白谷臣子	30
児童館実習	藤田留美	31
手話Ⅱ	札幌聴覚障害者協会 (河村明子)	32
体育	浦田日出雄	33
環境Ⅱ	千葉洸太	34

A 本校独自科目

児童館実習指導	藤田留美	35
点訳	吉田重子	36
応対論Ⅱ	三品あおい	37
国語総合演習Ⅱ	浦田日出雄	38
就職ガイダンスⅡ	藤田留美	39
幼児体育指導者	日本幼少年体育協会	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
憲法	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
渡邊 護	-	
科目のねらい		
法律の学習によって、論理的思考力・法的思考能力と教育者として必要なリテラシーを身につける。		
到達目標		
1、日本国憲法が採用・具体化している「立憲主義」の基本原則と仕組みを理解する。 2、日本国憲法に特徴的な規定・制度について理解する。 3、立憲主義の課題は、専制政治を防ぎ、個人の人権を確保する「立憲民主主義」の実現であることについて理解する。		
受講の心構え		
積極的な授業参加を求めます。		
成績評価基準		
レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する。 科目試験の結果により判定し評価する。		
授業計画表		
1. オリエンテーション 2. 未成年者・障がい者の人権 3. 成年後見制度、未成年後見制度 4. 精神に関する自由 5. 身体に関する自由 6. 経済に関する自由 7. 不法行為に基づく損害賠償請求権 8. 親族① 9. 親族② 10. 親族③ 11. 相続① 12. 相続② 13. 昨今の詐欺の形態について① 14. 昨今の詐欺の形態について② 15. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
適宜、資料を配付します		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
経済学	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
村中 典彰	-	
科目のねらい		
経済の仕組みについて、家計・企業・自治体や政府、世界の視点から学び、グローバルな社会に生きる個人としての知識を身につける。		
到達目標		
家計を担う個人として、経済の仕組みを理解し、グローバルな経済の中に潜むリスクに留意する。		
受講の心構え		
一般科目であるも、授業を大切に考え、毎時の終わりに配付・記入したプリントを回収し、評価する。		
成績評価基準		
授業プリント50%、定期考査50%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1 経済とは何か2 経済活動の主体3 日本やG7のGNP、NIの推移4 資本主義経済の成り立ち5 経済活動の歴史と変遷6 世界経済の不安定化とその要因7 外国為替と決済 クレジットカードの活用とリスク8 日本経済の失速と財政再建		
使用テキスト・参考文献		
テキストは特に用いないが、インターネットや経済にかかる著書から自作プリントを作成し、毎時学生に配付する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こども家庭支援論	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
高橋 麻実	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
めまぐるしく変化する現代の子育て家庭状況や、家庭が抱える問題が富裕ゆえの教育虐待や、貧困ゆえの学力格差、また、貧富に問わず、ネグレクトなど、内容が多種多様にわたっています。その最前線で家庭と関わりを持つ保育者が、理解と支援を学び、現場で生かすことのできることを目的とします。		
到達目標		
子育て家庭に焦点を当て、現代の家族が抱えている問題や課題を探りながら、子育てを取り巻く環境を理解します。そして、保育者として必要な社会的な子育て支援を学び、実践して活かせる対応力を身につけます。		
受講の心構え		
テキストを読み、用語を理解しておくこと。毎講義後にフィードバックを提出すること。		
成績評価基準		
課題レポート（40%）、振り返り小テスト（40%）毎講義後のフィードバック（10%）授業への参加・意欲・発表（10%）		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1、 子ども家庭支援の意義と必要性 ～オリエンテーション グループワーク（現代の子育ての現状把握） 2、 子ども家庭支援の目的と機能～保育士が目指す「子ども家庭支援」とはなにか 3、 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 ～子ども子育て会議では何が行われているのか？ 自分が議員になったらやってみたいことを考えよう 4、 子育て家庭の福祉図るための社会資源 ～社会資源を学び事例検討をする（グループワーク） 5、 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 ～様々な機関に属する保育士としてどんな子育て支援ができるのか 6、 子どもの育ちと喜びの共有 ～子どもの育ちとはなにか その喜びとはなんであるのかを考えて言葉にする 7、 保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 ～子育ての環境はどんな選択があるのか その選択に対してどんな支援が実在するか、また考えられるか考察する 8、 保育士に求められる基本的態度 ～「保育士」と「保護者」との信頼関係のためにできることとはなにか、 実際の声掛けや行動の事例検討（演習） 9、 家庭の状況に応じた支援 ～現代の過程の状況とはどんなものか その家庭にさまざまな立場（保育園保育士、児童養護施設職員、地域職員など想定して）でどのような支援ができるか考える（グループワーク） 10、 地域資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 ～地域の中の保育士としてできることを考える 保育士として関係機関との連携とはなにか 11、 子ども家庭支援の内容と対象 ～さまざまな子ども家庭支援の対象や形態を学び、実際に相談援助を活用する（演習） 12、 保育所などを利用する子どもの家庭への支援 ～保育所、保育士だからできる家庭支援について知る 事例検討 		

講義要綱

- 1 3、地域の子育て家庭への支援
～地域の子育て 自分の住む土地での家庭支援を想定してみる（演習）
- 1 4、要保護児童およびその家庭に対する支援
～要保護児童の現実について知る 要保護児童やその家庭への実態を知る
- 1 5、子育て支援に関する課題と展望～まとめ

使用テキスト・参考文献

公益財団法人児童育成協会＝監修／松原康雄、村田典子、南野奈津子＝編集『子どもと家庭支援論』

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こどもの保健	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
奥野 啓子	-	
科目のねらい		
① 子どもの発育・心身の健康状態を理解する。 ② 子どもに多く見られる代表的な疾患の予防・早期発見・対処方法の基礎知識を学ぶ。		
到達目標		
① 子どもの身体的な発育・発達と保健活動について理解できる。 ② 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 ③ 子どもの疾病と予防方法および多職種連携について理解できる。		
受講の心構え		
最終試験は配付資料から出題します。資料は授業内に記入してください。宿題は授業の始めに発表してもらうので用意を忘れないでください。		
成績評価基準		
筆記試験 80% 出席状況・授業態度・課題 20%		
授業計画表		
1. 子どもの心身の健康と保健の意義 ①生命の維持と安定に係る保健活動 2. ②健康の概念と保健指導 3. ③現代社会における現状と課題 ④地域における保健活動と虐待防止 4. 子どもの身体的発育・発達 ①身体発育及び運動機能の発達と早期発見 5. ②生理機能の発達と保健 6. 子どもの心身の健康状態と把握 ①健康観察 ②不調時の早期発見 7. ③発達・発育の把握と健康診断 8. ④医療・機関・保護者との情報共有 9. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴 ①先天性の病気 10. ②循環器、呼吸器、消化器の病気 11. ③アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気 12. ④脳の病気、その他の病気 13. ⑤感染症 14. (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応 15. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短大『子どもの保健』豊岡短大 山下雅佳実他『子どもの保健・健康と安全』東京教学者 資料は初回授業時に配付します。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもの食と栄養	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
坂岡 寿恵	-	
科目のねらい	こどもの健全な発育・発達には、成長段階における適切な栄養摂取と食生活が重要であり、生涯にわたる食生活習慣の基盤をつくる大切な時期です。保育者として、こどもの食に直接かかわるための知識と技術を身につけます。	
到達目標	1. 食と栄養に関する基礎知識と健康的な食生活の意義を習得する。 2. こどもの発育・発達段階に適切した食事支援ができる。 3. こどもの食生活の現状と問題点を把握し、食育の重要性の理解と実践力を身につける。	
受講の心構え	授業を通して自分の食生活や世の中の食や栄養に関する情報に関心を持ちましょう。配付資料、プリントは必ずファイリングして毎回持参してください。確認テストがあります。授業への積極的な学びを望みます。	
成績評価基準	筆記試験70% レポート・確認テスト20% 出席状況・授業姿勢10%	
授業計画表	1. こどもの栄養・食生活の意義、こどもの食生活の現状と課題 2. こどもの身体発育と栄養状態の評価、食べる機能の発達 3. 栄養・食生活の基礎知識① 4. 栄養・食生活の基礎知識② 5. 栄養・食生活の基礎知識③ 6. 妊娠・授乳期の栄養と食生活、乳児期の栄養と食生活 7. 乳児期の栄養と調乳実習 8. 離乳期の意義と離乳食 9. 離乳食の調理実習 10. 幼児期の栄養と食生活 11. 幼児食の調理実習 12. 学童期・思春期の栄養と食生活、児童福祉施設における食生活 13. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 14. こどもの食育（演習） 15. 授業のまとめ・考察	
使用テキスト・参考文献	久保田絹江『子どもの食と栄養』豊岡短期大学 参考文献は授業内で適宜紹介します。	
	毎回授業開始時にプリントを配付します。	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
乳幼児保育Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容に関わる実務に保育士として5年以上の経験を有する	
科目のねらい		
乳児期は、人生の出発点であり、人間が一生のうちで最も成長する時期です。また、子どもが「人」として生きていくうえで基本となる心情・意欲・態度の基礎を習得し、その力を活用して人格を形成していく大切な時期です。その大切な時期を保育する大人であることの重要性を理解し、保育者としての人間性と専門性を身につけていきます。		
到達目標		
・乳幼児保育における保育の実際と配慮事項について具体的に理解する。 ・演習を通し、実践に役立つ知識や「考える力」を養う。		
受講の心構え		
1年次の乳幼児保育（講義）からの続きになります。プリントは同じファイルに綴じてください。保育士の資格を持つ自覚を持ち、意欲的に参加してください。		
成績評価基準		
授業の取り組みやまとめを踏まえ、総合的に評価します。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1 オリエンテーション／乳児保育の基本2 0歳児クラスの実態（生活・環境・援助）3 1歳児クラスの実態（生活・環境・援助）4 2歳児クラスの実態（生活・環境・援助）5 乳児保育における配慮6 長期的な指導計画と短期的な指導計画、個別の指導計画について7 計画の振り返りについて8 授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
・授業時にプリントを配付します ・寺田清美・大方美香・塩谷香「乳児保育Ⅰ・Ⅱ新・基本保育シリーズ⑮」中央法規 ・『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』フレーベル館		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
こどもの健康と安全	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
高橋 和也	授業内容にかかわる実務に幼稚園教諭として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
保育の原点は、子どもの命を守り、子どもの健やかな育ちを支えることにあります。子どもの保健に関する知識を学び、保育環境や援助について理解する。		
到達目標		
1 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、衛生管理、事故防止及び安全対策、感染症対策について理解する。 2 子どもの発達や状況等に即した適応な対応、子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。		
受講の心構え		
子どもの安全・安心を守るために、保育士として何が必要かを考えながら学んでください。		
成績評価基準		
授業への取り組み30%、提出物20%、筆記試験50%		
授業計画表		
1 オリエンテーション・保健的観点を踏まえた保育環境および援助 2 保育における健康および安全管理 3 園内、散歩先での危険を学ぶ 4 子どもの体調不良などに対する適切な対応 5 感染症対策 6 保育における保健的対応 7 健康および安全の管理の実施体制 8 授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
授業時にプリントを配付いたします。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
障害児保育Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
千葉 桂子	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
障害児保育の歴史を知る。 障害児保育の実際について学ぶ。		
到達目標		
障害児保育を支える理念や歴史の変遷を知り、理解を深める。 支援者として求められる専門性について理解する。 障害児保育の実際について、個別の支援計画や指導計画など具体的な支援の仕方を学ぶ。		
受講の心構え		
保育の現場には障がいの有無に関わらず様々な支援が必要な児がいます。現場での状況や取り組みを伝え、グループワークや実技も取り入れながら進めます。配付する資料は必ずファイルし毎回持参してください。ミニレポートの提出もあります。		
成績評価基準		
まとめのテスト 60% 小テスト 20% 出席及び授業姿勢 20%		
授業計画表		
1 障害児保育の変遷 2 障害児の理解と支援 3 発達障害児の理解と支援 4 療育機関と保育機関の連携と発達の支援 5 障害児保育の実際①（保育内容と方法） 6 障害児保育の実際②（指導計画の作成と記録及び評価） 7 保育者の家族に対する理解と支援 8 まとめ		
使用テキスト・参考文献		
使用テキスト 西村重稀・水田敏郎『新基本保育シリーズ 17 障害児保育』中央法規（一年次同様） ・参考文献は、必要に応じ授業時に提示 ・テキストは毎回持参		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
社会的養護Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
和田 晃尚	授業内容にかかわる実務に社会福祉士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい	この科目は、児童福祉施設に入所している子どもたちやその家族への支援で求められる子どもの理解の視点や家族支援の在り方等の援助技術について、講義や演習を通して学びます。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none">・社会的養護にかかわる保育士等の専門職に必要な知識や技術を習得する。・社会的養護にかかわる保育士等の専門職が果たすべき役割を理解する。	
受講の心構え	1年生時に受講した「社会的養護」の授業内容をよく復習した上で授業に臨んでください。積極的な授業参加を期待します。	
成績評価基準	テスト(レポート)80%、出席状況や授業態度 20%	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1. 社会的養護における生活支援の実際①2. 社会的養護における生活支援の実際②3. 社会的養護における子どもアドボカシー4. 虐待を受けた子どもの理解とケア, 治療的養育の実際5. 社会的養護にかかわる専門職に必要な知識・技術①6. 社会的養護にかかわる専門職に必要な知識・技術②7. 社会的養護におけるソーシャルワーク8. 社会的養護にかかわる保育士等の倫理と責務	
使用テキスト・参考文献	参考文献 伊藤嘉余子, 小池由佳編著, 『はじめて学ぶ子どもの福祉6 社会的養護内容』 ミネルヴァ書房	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
子育て支援	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
伊藤 礼美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
保育の専門性をいかした子育て家庭や保護者に対する相談援助の実際や支援方法を学び保護者の「親育ち」を支援する知識・技術・価値観を理解する。		
到達目標		
子育て家庭に対して保育者が行う相談支援の内容とその実際を具体的に理解し保育現場で少しでも活用できることを目指す。		
受講の心構え		
子育て支援の取り組みについての情報を自分でも調べ興味関心を学んで欲しいです。		
成績評価基準		
授業の取り組み30% 提出物20% 試験50%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 子育て支援とは・子育て支援の意義2. 子育て支援の基本的技術・事例検討3. 保育・教育現場での子育て支援・事例検討4. 子育て支援の実践①5. 子育て支援の実践②6. 子育て支援の実践③7. お便りや文書を活用した子育て支援8. 授業まとめ		
使用テキスト・参考文献		
「保育所保育指針」 フレーベル館 「子育て支援」 中央法規 「保育所保育指針解説」 フレーベル館		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育・教職実践演習	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
高橋 和也	授業内容にかかわる実務に幼稚園教諭として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
保育士は子どもの生涯にわたる人格形成にとって極めて重要な時期に関わる大人である。重要な時期に関わる大人としての自覚、知識、技術、人間性を理解し、自らの課題を明確にしていく。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none">・保育士の役割や意味を理解し、保育士に必要とされる人間性を学ぶ。・実践していく中で、実際の現場で必要とされる知識・技術を身につける。・学びを振り返り、自分の目指す姿について具体的に考え課題に明確する。		
受講の心構え		
保育士になることを自覚し保育士として何が必要かを考えながら学んでください。		
成績評価基準		
授業の取り組み姿勢70%、提出物30%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. オリエンテーション・これまでの振り返り2. 保育士の業務の実際/保育者に求められる資質・人間性3. 保育士の役割～子どもを理解するとは4. 保育士の役割～子どもの理解の実践5. 主体的な遊びで育つ子どもの姿について6. 保育者として求められる対人関係能力7. 保育のPDCAサイクル～やってみよう/振り返りの重要性8. 保育の実践①9. 保育の実践②10. 保育の実践③11. 保育の実践④12. 保育の実践⑤13. 保育の計画14. 授業のまとめ①15. 授業のまとめ②		
使用テキスト・参考文献		
授業時にプリントを配付いたします。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こども学概論	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
こどもとは… どのような存在なのか、こどもを取り巻く環境と併せて考える。また、こどもの健やかな育ちを願い、こどもの発達を遊び・環境を通して理解する。その上で、発達にあった遊びや環境構成を実際に考え、実践することで、指導力を身につける。		
到達目標		
現代的なこどもの問題を考え、どのような環境が必要であるかを考える。また、こどもの成長とあそびの関係性を考察し、遊びを通してこどもの発達を理解する。		
受講の心構え		
保育ができる身だしなみを考え整えましょう。講義と演習を通して実践力を身につける授業です。積極的に授業に参加して知識と技術を身につけましょう。グループでの活動も多いので、協力して行ってください。		
成績評価基準		
提出物 50%・実践課題 50%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. オリエンテーション・こどもの理解2. 春の自然環境①3. 春の自然環境②配慮点と安全指導4. 遊びの大切さ・遊びの指導の重要性5. ねらいと内容 室内/戸外遊びと安全指導①6. 夏の自然環境①7. 夏の自然環境②配慮点と安全指導8. ねらいと内容 室内/戸外遊びと安全指導②9. 秋の自然環境①10. 秋の自然環境②配慮点と安全指導11. わらべうた12. 日本の承遊び～伝承遊びからみる現代のこども観～13. ねらいと内容 日本の伝統的な行事と園行事14. 冬の自然環境 配慮点と安全指導15. 授業の振り返りとまとめ		
使用テキスト・参考文献		
授業時にプリントを配付いたします。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもとリズム表現Ⅲ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
道上 里奈	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
保育に携わる者として、子どもと一緒に表現する喜びや楽しさを知っていく必要があります。まずは保育者自身が表現者として子どもに楽しさを伝えなくてはなりません。その経験を重ねる授業です。		
到達目標		
楽器の扱い方、計画の立て方や指導法を含めて考える。さまざまなリズム表現やリズム遊びなどを知り、人前で表現者として発表を重ねて自信をつける。		
受講の心構え		
歌う、踊るなど体を使って表現することを一緒に楽しんでください。また、楽器の使い方、わらべうた、手遊びなどを知る機会として、この授業を有効活用できるよう、意欲的に学んでください。		
成績評価基準		
授業態度や発表の仕方、参加意欲などで総合的に評価します。		
授業計画表		
1, オリエンテーション／手遊びの発表 2, 体操、ダンスの紹介／練習 3, 体操、ダンスの発表 4, わらべうた・リトミックについて 5, 集団遊びをしてみよう／集団遊びの計画 6, 集団遊び 発表 7, 楽器の紹介／グループ分け 8, 合奏練習 9, 合奏練習 10, 合奏練習 11, 合奏練習 12, 合奏練習 13, 合奏練習 14, 音楽発表会 15, まとめ		
使用テキスト・参考文献		
小林美実『こどものうた 200』チャイルド本社 小林美実『続こどものうた 200』チャイルド本社		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
幼児造形	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢元 政行	-	
科目のねらい		
保育実習に向けて取り扱う造形活動の教材についての必要な知識や技術を学び、さらに造形の方法・用具の扱いなど実技を通して体験的に学習する。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けた造形活動において、発達段階を踏まえた素材や技法、指導や援助について理解できる。 ・えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域、行事等における造形活動について実習で使える教材研究を行い習得できる。 ・教材研究および作品発表を行うことで思考力や表現力を高める。 		
受講の心構え		
保育実習に向けて、より実践的な造形教材について学びます。授業で使う道具等を忘れないこと、配付資料は、ファイリングしてください。演習後は感想を提出してもらいます。		
成績評価基準		
製作課題60%、プリント提出20% 出席率授業態度20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none"> 1.保育・教育実習に向けた造形活動の指導案の作成について 2.実習に向けた造形活動「えがく領域」の教材研究と演習 3.実習に向けた造形活動「えがく領域」の教材研究と演習 4.実習に向けた造形活動「つくる領域」の教材研究と演習 5.実習に向けた造形活動「つくる領域」の教材研究と演習 6.実習に向けた造形活動「造形あそび」の教材研究と演習 7.実習に向けた造形活動「造形あそび」の教材研究と演習 8.まとめ 		
使用テキスト・参考文献		
豊岡短大『造形表現論』（配本テキスト） 鶴留見裕子『おりがみよくばり百科』ひかりのくに」 毎回、授業開始時に資料を配付		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもと音楽表現Ⅳ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
折笠 美穂 ・ 田中 智子	-	
科目のねらい		
<p>様々な表現活動ができるように技術の向上を目指す。ピアノで弾ける曲のレパートリーを増やし伴奏としてのピアノの技術を学ぶ。歌うこと、楽器を演奏することを通して音楽の楽しさを感じ、保育の中に活かしてどのように発展させていくか考えながら技術を学ぶ。</p>		
到達目標		
<p>歌の伴奏法を学び実践に役に立つ力を身につける。各自の進度に合わせて簡易伴奏を用いる。</p>		
受講の心構え		
<p>保育活動でその曲をどのように使用するか考えて選曲し、レパートリーを増やし伴奏として歌に合わせて弾けるように練習してください。</p>		
成績評価基準		
<p>実技試験・授業態度・練習状況やグループ活動で意欲的に参加しているかを評価する。 実技試験 80%・授業態度 10%・練習状況 10%</p>		
授業計画表		
<p>1. ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習 2. ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習 3. ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習 4. ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習 5. ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習 6. ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習 7. ピアノの技術向上の為の演習 グループでの表現活動の演習 8. まとめ それぞれの成果を発表</p>		
使用テキスト・参考文献		
<p>小林美実編『こどものうた 200』『続こどものうた 200』チャイルド本社 授業で配付するプリント</p>		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習Ⅱ	15日間	135時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ol style="list-style-type: none">1. 実習園について理解を深め、安全および疾病予防への知識を身につける。2. 子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達を理解する。3. 生活や遊びの一部分を担当し、保育技術を習得する。4. 職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理を具体的に学ぶ。5. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。6. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。7. 安全および疾病予防への知識を身につける。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none">1. 保育所保育の実際に触れ、保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。2. 家庭と地域の生活実態を把握し、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育て支援をするために必要とされる能力を養う。		
受講の心構え		
卒業後の進路選択も見据えた積極的な実習態度を求めます。学ぶ姿勢を大切に実習に臨みましょう。		
成績評価基準		
実習施設からの評価70%、実習日誌等の記録物・実習報告などの評価30%を総合的に評価。		
授業計画表		
<p>○実習先 札幌市内および札幌近郊保育所</p> <p>○保育所における実習期間 令和7年6月9日(月)から令和7年6月27日(金) 【期間内で15日間】</p>		
使用テキスト・参考文献		
「実習の手引き」 他		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	実習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習Ⅲ	15日間	135時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ol style="list-style-type: none">1. 児童福祉施設などにおける養護・支援を実践し、施設保育士としての必要な資質・能力・技術を習得する。2. 家庭と地域との生活実態にふれて、児童家庭福祉、社会的養護に対する理解を元に、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。3. 施設保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己課題を明確化する。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none">1. 児童福祉施設、障害者支援施設等と機能を学ぶ。2. 施設における支援を体験し、利用者に対する受容・共感的態度を学ぶ。3. 個々の利用者のニーズ把握を通して個別支援計画について学ぶ。4. 施設保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。5. 多様な専門職との連携や地域社会との連携を学ぶ。6. 施設保育士としての自己課題を明確化する。		
受講の心構え		
卒業後の進路選択も見据えた積極的な実習態度を求めます。学ぶ姿勢を大切に実習に臨みましょう。		
成績評価基準		
実習施設からの評価70%、実習日誌等の記録物・実習報告などの評価30%を総合的に評価。		
授業計画表		
○実習先 希望する児童福祉施設及び福祉施設 ○実習期間 令和7年6月9日(月)～令和7年6月27日(金) 【期間内で15日間】		
使用テキスト・参考文献		
愛知県保育実習連絡協議会『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい出版 厚生労働省告示『保育所保育指針』フレーベル館/実習の手引き配付		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習対策Ⅱ・保育実習指導Ⅱ	16回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 実習を円滑に進めていくため知識や技術の習得をするとともに実習内容・実習課題を明確にする。 2. 実習を通して培った保育士としての資質・能力・技術を踏まえて、自己の課題を明確化させる。 ※保育実習指導Ⅱ（8時間）と保育実習対策Ⅱ（8時間）を併せて行うこととする。		
到達目標		
1. 保育所実習に必要な知識・技術を習得するとともに実習内容・実習課題を明確にする。 2. 実習後の振り返りを通して、今後の学習につなげ、自己課題を明確にする。		
受講の心構え		
授業での学びと実体験を繋げ、実習で得た様々な体験を振り返り、自己課題を明確にしましょう。		
成績評価基準		
授業態度・課題への取り組みと提出状況・発表を総合的に評価。		
授業計画表		
1. 実習の意義・目的・概要の説明・個人票の作成 2. 実習の抱負・実習課題の作成① 3. 実習課題の作成② 4. 実習先事前訪問 5. 年齢別遊びの展開～指導案作成① 6. 年齢別遊びの展開～指導案作成② 7. 年齢別遊びの展開～指導案作成③ 8. 年齢別遊びの展開～模擬保育④ 9. 実習日誌の取り扱い・記録の書き方 10. 事前集中指導① 11. 事前集中指導② 12. 事後集中指導① 13. 事後集中指導② 14・15.実習報告会 16. 1年生とのディスカッション		
使用テキスト・参考文献		
「実習の手引き」、配付資料、『保育所保育指針』フレーベル館		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育実習対策Ⅲ・保育実習指導Ⅲ	16回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1. 保育実習Ⅲ(施設)に必要な知識・技術を習得するとともに、自ら学習内容・課題を明確にする。 2. 実習終了後、実習の総括と自己評価を行い、自己の学びを確認するとともに今後の課題を明確にする。 ※保育所指導Ⅲ(施設)8時間と保育実習対策Ⅱ(施設)8時間を併せて行うこととする。		
到達目標		
《事前指導》 実習施設の制度的位置づけ、利用者と援助方法の概要、職員と業務内容について学ぶ。 実習記録や実習計画を学ぶとともに、人権尊重・守秘義務などの留意事項を学ぶ。 《事後指導》 実習の成果を個別に報告し、自己課題を明確にする。		
受講の心構え		
授業での学びと実体験を繋げ、実習で得た様々な体験を振り返り、自己課題を明確にしましょう。		
成績評価基準		
授業態度・課題への取り組みと提出状況・発表を総合的に評価。		
授業計画表		
1. 実習の意義・目的・概要の説明・個人票作成 2. 実習の抱負・実習課題の作成① 3. 実習課題の作成② 4. 実習先事前訪問 5. 実習課題の作成③ 6. 実習課題の作成④ 7. 個別指導計画の考え方① 8. 個別指導計画の書き方② 9. 実習日誌の取り扱い・記録の書き方 10. 事前集中指導① 11. 事前集中指導② 12. 事後集中指導① 13. 事後集中指導② 14. 実習報告会 15. 実習報告会 16. 1年生とのディスカッション		
使用テキスト・参考文献		
愛知県保育実習連絡協議会『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい出版		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
こどもと体育	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
矢幅 照幸	-	
科目のねらい		
(1) 乳幼児期における運動遊びの意義を理解し、(2) 乳幼児の発達に応じて、多様な動きを経験させることができる「運動遊び」の指導方法を身につける。		
到達目標		
(1) 多様な観点から「運動遊び」の指導内容を主体的に計画することができるようになる。(2) 集団に対して、個別性と安全面に配慮した「運動遊び」の指導を実践することができるようになる。		
受講の心構え		
自ら学ぶ意欲を持ち、積極的にからだを動かすことを心掛けること。授業に際しては、体調の管理に十分に留意し、運動に適した服装と体育館シューズを着用し、装飾品（時計やネックレスなど）は外して長髪は束ねるようにする。		
成績評価基準		
授業への取り組み 50%、提出物・模擬授業（指導計画・実践） 50%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 器具を使わない運動遊び（体づくり運動1）2. 器具を使わない運動遊び（体づくり運動2）3. ボール等を使った運動遊び4. 身近なものを活用した運動遊び5. 絵本を使った運動遊び6. 運動遊び指導計画17. 運動遊び指導計画28. 模擬授業（指導計画と実践）		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリントを配付します		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
卒業研究	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。		
到達目標		
授業、実習を通して学んだ技術を総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。		
受講の心構え		
子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持ち、クラス全員で良い作品を作りあげる。		
成績評価基準		
取組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. オリエンテーション リーダー、副リーダーを決めて卒業制作に向けて主として動く担当者を決める。 題材を選ぶ。2. 題材や主な内容を決めて、大道具・小道具・背景・衣装に担当分けをする。 題材が決まり次第、キャスト・器楽・黒子・音響・照明の担当分けをする。3. グループごとに製作4. グループごとに製作5. グループごとに製作6. グループごとに製作・完成7. 製作物の補正・修正8. 台本に合わせた必要な音楽を話し合う。9. 台本に合わせた必要な音楽を選曲し必要な楽器を選ぶ。10. 曲に合わせて楽器合奏を考え、歌詞を考える。11. 選曲させた曲のパートを決め練習する。12. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。13. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。14. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直しをする。15. 演技に合わせて実際に演奏し、必要な部分の手直し、楽曲を完成させる。		
使用テキスト・参考文献		
絵本、様々な楽譜など		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
保育制作Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
谷内 智美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
・保育教材の目的やねらいを理解し、子どもと一緒に楽しむことができるような保育教材を計画し作成する。 ・これまでの学びや実習での経験を生かし子どもの姿をイメージしながら表現・応用・展開し実践を行う。		
到達目標		
・年齢、行事、季節などを踏まえねらいを設定し、子どもが楽しめる保育教材を考え計画し、作成する。 ・これまでの実践や課題を通し身に付けた演技力・応用力・展開力を生かし、教材を使用した実践を行う。 ・実施後には振り返りを行い、自己課題を明確にする。		
受講の心構え		
これまでの学びを生かし、実際に現場で使用できる教材づくりをしていきましょう。 制作時間を大事に、子どもの楽しむ姿をイメージしながら計画性を持って制作できると良いです。		
成績評価基準		
授業態度・参加意欲 50%、制作物の進行・計画性や発表したもの 50% 総合的に評価します		
授業計画表		
1 オリエンテーション／制作・活動計画① 2 制作・活動計画② 3 制作・活動① 4 制作・活動② 5 制作・活動③ 6 制作・活動④ 7 実践① 8 実践②／授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
特にテキストはありませんが、インターネットだけではなく保育雑誌や台本集、実習先の教材など様々な教材や技法を参考にすることや、知ろうとする気持ちを大切にしてください。また、実習などで実際に教材を使用した保育に参加できた場合は、その時の様子などメモしておくと思えます。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
障害者支援論	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
林 広康	-	
科目のねらい		
障害とは？何かを知ってもらう。障害を持った方々は特別ではなく、自分たちと変わらず生活している中で、人と人との関りであることを学んでもらう。		
到達目標		
障害を持つ方々の支援について障害を知り、またどのような生活をしているか？生活する中でどのようなサービスがあるかを知る。		
受講の心構え		
配付資料はファイリングすること/積極的に授業に参加することを期待します。		
成績評価基準		
出席、授業姿勢 50% 事例検討 30% まとめ 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">①オリエンテーション 講師自己紹介 授業計画説明 ②障害とは何かについて考える お互いを知りあうこと（生徒に自己紹介をしてもらいます）福祉サービスについて 障害のある方々が生活するうえで利用できるサービスについてコミュニケーションの取り方について虐待防止と権利擁護について個別支援計画と作成方法について事例検討（グループディスカッション）事例検討（グループディスカッション）まとめ		
使用テキスト・参考文献		
随時、必要に応じて資料を配付します（当日）		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
卒業研究Ⅱ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
2年間学んだことを生かし、総合的な創造力・表現力を身につけるとともに、表現することを通して、保育者としての指導力を養う。		
到達目標		
授業、実習を通して学んだ技術を総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。		
受講の心構え		
子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持ち、クラス全員で良い作品を作りあげる。		
成績評価基準		
取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 各パート練習12. 各パート練習23. 各パート練習34. 各パート練習45. 各パート練習56. 合同練習17. 合同練習28. 合同練習39. 合同練習410. 合同練習511. 合同練習612. 総合練習113. 総合練習214. 総合練習3 (会場設営)15. 総合練習4 (会場設営)		
使用テキスト・参考文献		
特になし		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
卒業研究Ⅲ	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
房田 里枝	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
2年間学んだことを活かし、総合的な創造力・表現力として発揮するとともに、保育者としての指導力を養う。さらに、チームとして協力し合い、作品を作り上げる達成感を味わう。		
到達目標		
1. オペレッタの内容に合わせ、背景、大道具、小道具、衣装の製作を行う。 2. 台本にあわせ、オペレッタの表現にふさわしい音楽を創作して歌詞を考え、場面にあった楽器、効果音、BGMを考え演奏する。		
受講の心構え		
子どもたちが興味・関心をもって鑑賞する姿をイメージしながら、それぞれが責任と自覚を持ち、クラス全員で良い作品を作りあげる。		
成績評価基準		
取り組み段階から最終日までの状況を総合的に評価する。		
授業計画表		
1. 各パート練習1 2. 各パート練習2 3. 各パート練習3 4. 各パート練習4 5. 各パート練習5 6. 合同練習1 7. 合同練習2 8. 合同練習3 9. 合同練習4 10. 合同練習5 11. 合同練習6 12. 総合練習1 13. 総合練習2 14. 総合練習3 15. 評価と反省		
使用テキスト・参考文献		
特になし		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態																
こども福祉科 保育士コース	2年次	演習																
科目名	授業回数	授業時間																
こどもと音楽表現VI	8回	15時間																
担当者氏名	担当者実務経験																	
折笠 美穂 ・ 田中 智子	-																	
科目のねらい																		
様々な表現活動ができるように技術の向上を目指す。曲のレパートリーを増やし就職に向けて歌の伴奏としてのピアノの技術を学ぶ。グループでうたを歌ったり、楽器演奏をとおして音楽の楽しさを感じ、保育の中に活かすどのように発展させていくかを学ぶ。																		
到達目標																		
こどものうたの弾き歌いや伴奏法を学び就職に向けての力をつける。それぞれの進度に合わせてコードや簡易伴奏を用いて歌の伴奏をする技術を学ぶ。音程やリズムを正確に演奏することを目指す。歌や楽器演奏をとおしてグループとしての表現活動を体験する。																		
受講の心構え																		
新しい曲や今まで練習してきた曲を毎回発表していくことで人前での演奏に慣れる。その中から保育士として現場でどのようなように用いていくか想像しながら各自で練習しレパートリーを増やしていただきます。																		
成績評価基準																		
実技試験・授業態度・練習状況やグループ活動で意欲的に参加しているかを評価する。 実技試験 80%・授業態度 10%・練習状況など 10%																		
授業計画表																		
<table border="0"> <tr> <td>1. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>2. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>3. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>4. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>5. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>6. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>7. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)</td> <td>グループでの表現活動</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ それぞれの成果を発表</td> <td></td> </tr> </table>			1. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動	2. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動	3. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動	4. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動	5. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動	6. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動	7. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動	8. まとめ それぞれの成果を発表	
1. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動																	
2. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動																	
3. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動																	
4. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動																	
5. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動																	
6. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動																	
7. こどものうたのレパートリーを増やす演習 (就職に向けてのピアノと歌)	グループでの表現活動																	
8. まとめ それぞれの成果を発表																		
使用テキスト・参考文献																		
小林美実編『こどものうたの200』『続こどものうた200』チャイルド本社 授業で配付するプリント																		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
児童館・児童クラブの活動内容と指導法 I	15回	30時間
担当者氏名	担当者実務経験	
白谷 臣子 (佐々木 尚代)	授業内容にかかわる実務に幼稚園教諭として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
児童厚生員にとって、ソーシャル・ワークをベースとした児童館・放課後児童クラブの活動や、行事の企画、利用者への対応、地域とのかかわりなどについて学ぶことは必要不可欠となる。実習に向けて、児童館・放課後児童クラブの活動を理解するとともに実習現場で活用できる実践活動を学ぶ。		
到達目標		
1 児童館・放課後児童クラブの役割や活動を理解する。 2 子どもにとっての遊びの大切さを実践の中で体得する。 3 子どもや保護者等利用者とのかかわりの大切さを理解し、実習での実践へとつなげる。		
受講の心構え		
子どもとかかわる上で重要な遊びに興味を示し、積極的に授業に臨むことを期待する。 また、実習に向けて目標を持ち、創意工夫した活動を期待する。		
成績評価基準		
授業姿勢 50%、実習姿勢およびレポート 30%、テスト 20%		
授業計画表		
1. オリエンテーション 2. 子どもの遊びの発達 3. ソーシャルワーク 4. グループワーク 5. ケースワーク・コミュニティワーク 6. ソーシャルワークの展開 7. 集団遊び・遊びの重要性 8. 遊びの企画 I 計画 9. 遊びの企画 II 準備 10. 遊びの企画 III 実践練習 11. 実習の振り返り I 12. 実習の振り返り II 13. 遊びの実践・ソーシャルワークのまとめ 14. 1年間のまとめ対策 15. 授業のまとめ		
使用テキスト・参考文献		
児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ① 健全育成論 児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論 (改訂版) 児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ④ ソーシャルワーク 遊びの資料、関連する新聞記事など適宜		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	実習
科目名	授業回数	授業時間
児童館実習		10日間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	保育士として授業内容に関わる実務に5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
1, 実習を通し、児童館の役割や支援の実際、児童厚生員の職務について学ぶ。 2, 子どもたちとの遊びやふれあいを通し、子どもの発達における「遊び」の大切さを知り、遊びを支援する時に求められる視点と技術を学ぶ。 3, 様々な子どもや家庭とのかかわりを通し、コミュニケーションの方法や臨機応変な対応の方法を学び、子どもや保護者、地域のニーズ、支援について学ぶ。		
到達目標		
1, 児童館・放課後児童クラブの実習を通して、実際に業務を体験することで、児童館・放課後児童クラブの機能・役割と具体的な活動について理解する。 2, 児童厚生員の職務を理解する。		
受講の心構え		
謙虚な姿勢で実習に臨んでください。		
成績評価基準		
実習出席状況、実習評価、提出物を総合的に評価		
授業計画表		
○実習期間 令和7年7月16日～令和7年7月30日の中で10日間 ○実習施設 札幌市内の児童館 1, 児童館の役割と機能 2, 児童館における活動、支援の実際 1) 児童館の1日、1週間の流れを理解する 2) 児童館のプログラム活動やイベント、遊び、子どもたちとのかかわりを通して子どものニーズを理解する。 3) 児童館のプログラム活動やイベントの企画の目的を理解し、立案の仕方を学ぶ 4) 職員の講話や指導のもとに、子どもの個人差や生活環境に合わせた子どもへの支援方法を学ぶ 5) 子育て家庭・家族への支援と対応の理解を深める 3, 児童厚生員、保育士の多様な業務内容と職業倫理への理解を深める		
使用テキスト・参考文献		
せいとく介護こども福祉専門学校 「実習の手引き」		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
手話Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
河村 明子	-	
科目のねらい		
聴覚障害者の言語である「手話」の基本を学びます。 聴覚障害についての基礎知識と自己紹介や日常生活など身近な話題に関する手話表現を学びながら、更にコミュニケーション意欲を高めます。		
到達目標		
1. 聴覚障害者のコミュニケーション手段の1つである手話という言語を基礎から学び、日常的な会話ができる。 2. 全国手話検定4・5級合格を目指す。		
受講の心構え		
手話を習得するために、講師の手話表現をしっかりと見て、積極的に手を動かすこと。 各自でも手話を学べるように復習をすること。		
成績評価基準		
実技試験（スピーチ・手話表現）70% 授業への取り組み姿勢と手話実技の習得度を30%評価する		
授業計画表		
1. ガイダンス 復習「自己紹介」 2. ステップアップ：話してみましよう①「趣味、仕事、住所」 3. ステップアップ：話してみましよう②「時に関する手話」 4. ステップアップ：話してみましよう③「疑問詞を使って会話①」 5. ステップアップ：話してみましよう④「疑問詞を使って会話②」 6. ステップアップ：話してみましよう⑤「色の手話」 7. ステップアップ：話してみましよう⑥「会話をしてみましよう」 手話検定に向けての学習 8. まとめ		
使用テキスト・参考文献		
「さっぽろの手話」公益社団法人札幌聴覚障害者協会 参考資料 「DVDで学ぶ手話の本」全国手話検定試験5級対応・4級対応（社会福祉法人全国手話研修センター） 「わたしたちの手話学習辞典Ⅰ」（一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局）		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
体育	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄		
科目のねらい	身体活動を通して、心身の健康保持の大切さをしる。体力の向上とともに、公正・協力・責任などの態度を養う。生涯を通して、生活を豊かにするために、スポーツに親しむ態度や能力を養う。	
到達目標	運動に臨む態度や約束事を理解し実践する。各種の運動やスポーツに親しむことができる。	
受講の心構え	授業準備、用具の準備、後片付け、運動への積極的な取り組みを期待します。	
成績評価基準	授業姿勢 30% 運動への取り組み 40% 運動技能 30%	
授業計画表	<ol style="list-style-type: none">1. 授業を進める上での約束事・取り組む姿勢の確認。ミニバレーボールに親しむ。2. バレーボールに親しむ。(ルール理解、サーブ、レシーブ、トス、スパイク)3. バレーボールに親しむ(ゲームなど)4. 長縄跳びをする。バドミントン(シングルス)に親しむ(ルール理解、基本練習)5. バドミントン(ダブルス)に親しむ。(ゲームなど)6. バasketボールに親しむ。7. 卓球(シングルス)に親しむ。(ゲーム理解、基本練習、ゲームなど)8. 卓球(ダブルス)に親しむ。(ゲームなど)	
使用テキスト・参考文献	必要に応じてプリントを配付する。	

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
環境Ⅱ	15回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
千葉 洸太	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
自然環境とこどもの繋がり の理解と、実践力の獲得。		
到達目標		
こども環境管理士2級取得相当の知識及び技術を身につける。		
受講の心構え		
講義だけではなく、実際の自然環境に触れる時間も設けます。汚れてもいい服装や、汚れる可能性があることと心得て受講すること。		
成績評価基準		
筆記試験 80% 授業態度及び提出物 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">こども環境管理士とは 自然の基本（生態系、地球環境の基本）季節の変化を学ぶ自然活動①(夏の公園探索)季節の変化を学ぶ自然活動②(生物との関わり)こどもと自然環境Ⅰ 身のまわりの自然①（環境課題）こどもと自然環境Ⅰ 身のまわりの自然②（エネルギー）季節の変化を学ぶ自然活動③(自然と食事)こどもと自然環境Ⅰ 身のまわりの自然③（条例、海外の自然環境）こどもと自然環境Ⅰ 身のまわりの自然④（動植物の基本、注意が必要な自然環境）季節の変化を学ぶ自然活動④(秋の自然探索)こどもと自然環境Ⅱ 自然環境との繋がり①（自然環境との共存、国の対策）こどもと自然環境Ⅱ 自然環境との繋がり②（環境に配慮した生活 i 身近な配慮）こどもと自然環境Ⅱ 自然環境との繋がり③（環境に配慮した生活 ii こどもへの伝え方）季節の変化を学ぶ自然活動⑤(冬の自然遊び体験)授業のまとめテスト (こども環境管理士2級を受験する学生は、後日試験にも臨む)		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じて資料を配付		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 保育士コース	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
児童館実習指導	3回	アイテムを選択してください。
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
<ul style="list-style-type: none">・実習に向けて、児童館・放課後児童クラブの機能と役割、職員の業務内容、子どもの活動内容についての事前学習を行い、実習目標の設定につなげる。・実習で学び得たことを整理し、地域の子どもたちの居場所や集団についての理解を深める。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none">1.児童館・放課後児童クラブの概要と実習施設の情報を把握する。2.子どもの活動内容を知り、事前知識を学ぶ。3.実習目標の設定および実習に向けての抱負をまとめる。4.指導計画（チャレンジプログラム）の準備をする。5.実習後レポートと体験発表をする。		
受講の心構え		
子どもの前で遊びを展開していくことを想定し、前向きに取り組んでください。		
成績評価基準		
授業態度、報告内容、提出物を総合的に評価します。		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1.実習個人票作成、配属児童館の概要及び情報収集、子どもの活動の実践練習2.実習目標と抱負の作成、指導計画（チャレンジプログラム）の作成3.実習レポート作成、実習体験報告会		
使用テキスト・参考文献		
「児童館実習の手引き」は毎回持参すること。 こどものあそびについて、どのようなものがあるのか調べることは必要です。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
点訳	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
吉田 重子		
科目のねらい		
点字の書き方の基本を習得するとともに、視覚障害者を取り巻く社会環境、生活上の不便さ等の一端を学ぶことを通して、よりよい支援を考えるきっかけとする。		
到達目標		
・連絡事項や私信など、日常生活上の情報を伝えられる程度の点字を書くことができる。 ・視覚障害の種類、日常生活用具、余暇の利用の可能性など、視覚障害者を取り巻く社会環境の一端を知ることができる。		
受講の心構え		
毎時配付するプリントをしっかりと読んで、点訳演習に取り組むこと。		
成績評価基準		
レポート課題60%、授業への取り組み（発言や毎時行う演習提出物等）40%		
授業計画表		
1 点訳：点字の仕組み、点字器の使い方、50音の習得（清音・濁音） トピックス：点字の歴史		
2 点訳：拗音・拗濁音・数字の習得 トピックス：視覚障害の定義、疾患や見え方等		
3 点訳：点字表記法の特徴（助詞の表記等）の習得 トピックス：視覚障害者用日常生活用具・学習用具の紹介		
4 点訳：文の書き方。分かち書きの基本の習得 トピックス：街中で見かける点字について		
5 点訳：文の書き方、分かち書きの基本の習得 トピックス：視覚障害者と余暇の利用（スポーツ）		
6 点訳：文章の書き方、分かち書きの習得、指先で点字を読む体験 トピックス：視覚障害者と余暇（映画鑑賞、読書等）		
7 点訳：文章の書き方、書式の基本の習得、アルファベットの習得 トピックス：視覚障害児と玩具（健常児とともに遊べる「共遊玩具」の紹介）		
8 点訳：文章の書き方、書式の基本の習得、アルファベットの習得 トピックス：視覚障害児・健常児、子供同士の関わりを促す支援の在り方		
使用テキスト・参考文献		
全国資格障害者情報提供施設協会『初めての点訳 第3版』 吉田重子『点字からはじまるメッセージ』北海道新聞出版局		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
応対論Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
三品 あおい	-	
科目のねらい		
<ul style="list-style-type: none">・2年生になり、毎回より実践的な内容に取り組みます。・マナーを通して円滑なコミュニケーションを図り、より円滑な人間関係を築くことをねらいとします。		
到達目標		
「挨拶」「身だしなみ」「言葉づかい（敬語）」と言った、社会人として必須・基本的なことを日々の学校生活から実践する。		
受講の心構え		
応対論は社会に出る前の練習の場であるので、授業で学んだことを積極的に実践して習慣にしましょう。挨拶や敬語などマナーは他の教科や日常生活でも身につきます。欠席した場合は、次の授業で支障がないように、事前に他の学生のノートやテキストで確認しましょう。		
成績評価基準		
筆記試験25%・実技試験25%・平常点（授業での取り組み50%）の総合評価		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1.円滑な人間関係を築くためのマナー2.就職面接のマナー・第一印象の重要性3.就職面接のマナー（アポイントメントの取り方・訪問等）4.就職面接のマナーの実践5.保育者の職場（保護者他）へのマナー（守秘義務・SNS等）6.保育者の職場（上司・先輩・同僚）へのマナー（報連相・敬語・整理整頓等）7.社会に出て役立つマナー（冠婚葬祭・食事のマナー・お礼状等）8.まとめ・試験		
使用テキスト・参考文献		
テキスト 「マナー&プロトコルの基礎知識」NPO法人 日本マナープロトコル協会		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	講義
科目名	授業回数	授業時間
国語総合演習Ⅱ	8回	15時間
担当者氏名	担当者実務経験	
浦田 日出雄		
科目のねらい		
自分が書く文字について振り返り、正確で読みやすい工夫をする。また、いろいろな様式の文章に触れ、目的に合った文章を理解したり、書いたりする。		
到達目標		
字形を整え、丁寧に文字を書くことが出来る。語彙を増やし、使用することができる。いろいろな様式の文章を書くことができる。		
受講の心構え		
伝えたいことを話したり、書いたり、相手の話を聞いたりしながら、豊かな表現を目指し取り組んでほしい。		
成績評価基準		
まとめの試験 60% プリント提出 20% 授業姿勢 20%		
授業計画表		
<ol style="list-style-type: none">1. 個人票を作成する。2. 封筒の宛名、差出人の住所、名前をバランス良く書く。礼状の書き方。3. 礼状の書き方を知る。4. 履歴書について理解する。同音異義語を練習する。5. 履歴書を書く。同訓異義語を練習する。6. 慣用句、専門用語の正しい理解と使い方を知る。7. 四字熟語が読めて、意味を知る。ことわざについて知る。8. ことわざについて知る。まとめの試験をする。		
使用テキスト・参考文献		
必要に応じてプリントを配付する。		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	2年次	演習
科目名	授業回数	授業時間
就職ガイダンスII	5回	10時間
担当者氏名	担当者実務経験	
藤田 留美	授業内容にかかわる実務に保育士として5年以上の経験を有する。	
科目のねらい		
・実習など学校スケジュールがある中で、いつ、何をするのか具体的な行動を理解し、各自が主体的に考え、行動できることを目指す。		
到達目標		
1. 進路について、主体的に考え、取り組める。 2. 就職活動に必要な知識や技術を認識し、獲得する。 3. 就職試験の傾向と対策を学び、自らの就職活動に反映させ行動する。		
受講の心構え		
希望する進路は、自分で「掴み取る」ものです。「実現してもらう」ものではない。希望する進路を掴み取るために、一緒に考え行動しましょう。		
成績評価基準		
受講をもって履修とする。		
授業計画表		
1 前年度求人・内定の流れ、就職活動のきまりと受験等各種手続きについて 2 求人票を見るポイント 3 長期休みとそれ以降の具体的な就職活動について 4 分野別ガイダンス・就職試験に向けた対策 5 内定者・未定者指導		
使用テキスト・参考文献		
学校から資料配付		

講義要綱

学科・コース	年次	授業形態
こども福祉科 合同	1・2年次	講義・演習
科目名	授業回数	授業時間
幼児体育指導者	2日間	—
担当者氏名	担当者実務経験	
日本幼少年体育協会		
科目のねらい		
①幼児・児童に対し、安全で楽しい体育指導実践の基礎を取得する。 ②運動や遊びのレパートリーを増やす。 (日本幼少年体育協会受講要領より)		
到達目標		
幼児体育指導者2級の取得。		
受講の心構え		
理論講習、実技講習を全て受講しなければ、検定試験を受験することはできません。遅刻、欠席、途中退室のないようにすること。実技は自主練習を行い試験に臨むようにしましょう。 筆記用具の持参、運動しやすい服装で参加しましょう。		
成績評価基準		
学科試験：合格点 80 点以上、実技試験：リズム体操、マット、跳び箱、縄跳び		
授業計画表		
<p>【1日目】令和7年9月11日(木) 理論講習、実技講習</p> <p>【2日目】令和7年9月12日(金) 理論試験、実技講習、実技試験 合格発表、追試験</p> <p>※追試験がある方は補修後に追試験を行う 制限時間内に合格が得られない場合は3級以下または不合格になる場合があります。</p>		
使用テキスト・参考文献		
日本幼少年体育協会から郵送されるテキスト 幼児体育指導者2・3級公式テキスト、幼児体育「応用編」		